

令和3年11月定例会 総務委員会（事前）

令和3年11月22日（月）

〔委員会の概要 政策創造部関係〕

井下委員長

休憩前に引き続き、委員会を開会いたします。（11時09分）

これより、政策創造部関係の調査を行います。

政策創造部関係の11月定例会提出予定議案はありませんが、この際、理事者側から報告事項があればこれを受けることにいたします。

【報告事項】

なし

板東政策監補

理事者におきまして、報告すべき事項はございません。

よろしくお願い申し上げます。

井下委員長

次に、関西広域連合議会議員の井川委員から、関西広域連合議会の活動状況について報告を受けたいと思います。

【報告事項】

○ 関西広域連合議会について

井川委員

それでは、前回の報告に引き続き、関西広域連合議会の活動について、その概要を報告いたします。

まず、10月2日に大阪市において開催されました総務常任委員会についてであります。

理事者から令和2年度関西広域連合一般会計歳入歳出決算認定の件について説明がなされ、賛成多数で認定されました。

続いて、理事者から関西広域連合委員会の開催概要、関西広域連合議会の指摘に対する対応状況について、報告が行われました。

また、同日に開催された理事会において、新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえ、全員協議会のリモート開催を実施してはどうかとの協議がなされました。結果、令和3年11月6日開催の全員協議会を試行的にリモート開催することとし、これを踏まえ、改めて協議の場を設けることとなりました。

次に、10月16日に滋賀県において開催されました産業環境常任委員会についてであります。

まず、広域環境保全の推進について理事者から説明が行われ、これに対し委員からは、関西広域連合域内の食品ロスはどうぐらいあるのか、また、今後どの程度削減していくの

か、鳥獣撃退用として4足歩行の大型ロボットの導入やドローンを活用するなど、確実に鳥獣被害をなくす対策を進めていくべきではないかなどの質疑がなされました。

次に、広域観光・文化・スポーツ振興について理事者から説明が行われ、これに対し委員からは、生涯スポーツ先進地域関西を目指すに当たり、総合型地域スポーツクラブの役割が重要となるが、関西広域連合域内でクラブが設置されていない市町村の解消に向けた取組はしているのか、関西広域連合域内に存在する国宝に触れる旅という切り口から、関西文化の魅力発信を進めていってほしいなどの質疑がなされました。

最後に、11月18日に大阪市において開催されました11月臨時会についてであります。

広域連合長から、関西広域連合会計年度任用職員の給与及び費用弁償等に関する条例の一部改正の件など計2議案が提出され、全て原案どおり可決及び認定されました。

そのほか、一般質問が行われ、本県からは私が質問を行い、大麻乱用防止の取組強化について、紀淡海峡ルートの実現について、理事者の見解をただしたところであります。

その他の議員からは、ワクチン接種の推進策について、水素社会の実現に向けた関西広域連合の役割についてなどの質問がなされました。

また、同日に開催された理事会において、リモート開催についての協議が行われました。

報告は、以上であります。

井下委員長

関連して、理事者において、説明又は報告すべき事項があればこれを受けたいと思いません。

【報告事項】

- 関西広域連合委員会について（資料1）

板東政策監補

関西広域連合委員会に関しまして御報告させていただきます。

資料1を御覧ください。

9月定例会における御報告後、11月18日までの間に、関西広域連合新型コロナウイルス感染症対策本部会議を兼ねて計3回の委員会が開催され、関西圏域における新型コロナウイルス感染症への対応等に関して協議がなされておりますので、そのうち主な協議内容について、御説明させていただきます。

1 ページを御覧ください。

9月23日、第23回関西広域連合新型コロナウイルス感染症対策本部会議を兼ねて実施された第134回委員会での協議内容についてでございます。

9月に入り、新規感染者数が減少傾向に転じる中、第5波収束を見据えた実効性のある対策について国に緊急提言を行うとともに、収束に向けた府県市民の責任ある行動の徹底を呼び掛ける関西・第5波収束徹底宣言！を発出いたしました。

次に、6 ページを御覧ください。

令和4年度予算編成方針案についてでございます。

方針案としまして、新型コロナウイルス感染拡大の影響による構成府県市の厳しい財政状況を十分に留意した上で、関西広域連合の存在意義を一層高めることを目指し、徹底した選択と集中により予算編成を行うことを確認しました。

次に、8ページを御覧ください。

大阪・関西万博、関西広域連合のパビリオン出展についてでございます。

基本構想としまして、関西の一体感を保持しつつも、各府県市の個性を生かした様々な展示をコンセプトとし、パビリオン設置の基本的な考え方としまして、関西各府県市の観光、移住、産業振興等のゲートウェイとすることを目的としております。

具体的な展示案としまして、エントランスに位置し、関西全体を紹介する関西棟、出展を希望する府県市による独自出展ゾーンとなる府県市棟、会場外からのアクセスも可能とするWEBパビリオンの三つで構成することとしております。

推進体制としまして、関西広域連合委員であります知事、市長で構成する企画委員会を設置し、必要に応じ専門技術を有するディレクター等を活用しながら検討を重ねてまいりたいと考えております。

今後のスケジュールとしましては、来年度には出展基本計画の策定及びパビリオンの設計を行い、令和5年度には建築工事を開始することとしており、令和7年度の本番に向け、着実に歩みを進めてまいりたいと考えております。

次に、11ページを御覧ください。

10月28日、第24回関西広域連合新型コロナウイルス感染症対策本部会議を兼ねて実施された第135回委員会におきましては、令和4年度国の予算編成等に対する提案としまして、新型コロナウイルス感染症からの早期回復及び感染症対策の充実、国土の双眼構造の構築及び分権型社会の確立、関西圏における広域的な課題解決などについて取りまとめ、各省庁に提案を行うことを決定しました。

次に、30ページを御覧ください。

11月18日、第25回関西広域連合新型コロナウイルス感染症対策本部会議を兼ねて実施された第136回委員会におきましては、日下部消費者庁新未来創造戦略本部次長に御出席いただき、来年4月の成年年齢引下げを見据えた消費者庁新未来創造戦略本部の取組等について御紹介いただくとともに、各委員との意見交換を行いました。

次に、44ページを御覧ください。

関西圏域における新型コロナウイルス感染症への対応等についてでございます。

感染再拡大の予防と経済対策の両立が求められる中、各府県知事、市長から、ワクチン追加接種の接種間隔やワクチン・検査パッケージなどについて、国から具体的な内容が示されず、現場が混乱しているとの意見がありました。このため、広域医療局において関西広域連合としての意見を早急に取りまとめ、国に対し提言を行うことを決定いたしました。

次に、45ページを御覧ください。

関西圏域における高病原性鳥インフルエンザの発生についてでございます。

去る11月16日、兵庫県において、本年度、国内では4例目、関西圏域では1例目となる高病原性鳥インフルエンザが発生したことを受け、関西圏域からは本県からの1名を含む、5県7名の家畜防疫員を兵庫県に派遣しました。

また、今後の新たな発生防止に万全を期すため、昨年度に引き続き警戒本部を設置し、圏域内での発生状況について構成府県市間で情報共有を行うことを確認いたしました。

関西広域連合委員会に関する御報告は、以上でございます。

よろしくお願ひ申し上げます。

井下委員長

以上で報告は終わりました。

これより質疑に入ります。

それでは、質疑をどうぞ。

梶原委員

1点だけお伺ひいたします。

市町村の行政システムのランサムウェア対策についてお伺ひいたします。

先日、町立の半田病院でランサムウェアの被害が出ました。復旧まで時間が掛かり、地元の患者さんや病院もトラブルで大変混乱したということがありました。テレビで見たのですけれども、特にがんの治療をされている方などが、過去のカルテが見えないといった点で非常に心配されているという報道がされておりました。

市町村の医療システムのセキュリティ対策につきましては、基本的には保健福祉部のほうで指導監督されていると思うのですけれども、市町村の行政システムは個人情報が入り込んでいますので、県としてどのような対策がとられているのか、お伺ひいたします。

木野内デジタルとくしま推進課長

ただいま梶原委員より、市町村における行政システムのランサムウェア対策の状況と県の取組について御質問を頂きました。政策創造部からは、市町村行政システムの対応状況についてお答えさせていただきます。

インターネットの世界は常にウイルスが存在するという危険がございますことから、本県では、市町村のホームページや電子申請届出システム、庁外メールといった外部と接続をしておりますインターネット環境につきまして、県の主導の下で、全ての市町村が参画し、平成15年度以降、システムの安全性強化と安定運用を実現します県市町村共同利用システムの構築を進めてきたところでございます。

特に、セキュリティ対策につきましては、近年世界的に高まるサイバー攻撃の脅威に対応するために、平成29年度から徳島県自治体情報セキュリティクラウドの運用を開始いたしまして、三重、四重の侵入防止システムの構築によるハード対策はもちろん、ソフト面においては、専門知識を有するセキュリティの専門人材による24時間365日のシステムの監視体制、また常に最新、最適なセキュリティレベルの確保、さらには異常の早期発見対処を図るためアクセス記録の分析と対応を行いまして、市町村間でレベル差のない高度なセキュリティ環境を実現しているところでございます。

さらに、万が一ランサムウェアに侵入された場合でも、重要データが持ち出されないよう三層分離を徹底しております。三層分離と言いますのは、三つの環境の分離と

ということで、インターネット環境、L GWANと言います国、県、市町村の行政ネットワーク、マイナンバー系の三層の物理的な分離を徹底しております。さらに、嚴重なバックアップ体制によりまして、早期復旧を可能にしておるところでございます。

一方で、セキュリティ対策、安全対策に絶対はございませんので、今後とも常に県、市町村におけるシステムのセキュリティ対策を徹底いたしますとともに、県と全市町村で構成する県・市町村情報化推進協議会におきまして、市町村の職員に対しインシデント事例の共有と、有事における対応スキルの向上を図り、情報セキュリティ対策に万全を期してまいりたいと考えております。

また、市町村における医療システムのセキュリティ対策は、先ほど委員がおっしゃいましたように、保健福祉部におきまして指導監督されているところではございますが、県行政システムにおけます専門的知見をしっかりと共有、協力いたしまして、本県全体におけるセキュリティの向上につなげてまいりたいと考えております。

梶原委員

三重、四重の侵入防止システムと、市町村間でもレベル差がないような高度なセキュリティ環境を実現しているということですので、少し安心いたしました。

テレビでも半田病院の院長先生だったと思うのですが、まさかこんな田舎の病院で起こるとは思っていなかったということをおっしゃっていただきました。

ですので、三重、四重の嚴重な対策をとられていると思うのですがけれども、こういうことが起こると命に関わることもございますので、これからはマイナンバーの普及もどんどん進めていって、デジタル化は大事なことだと思いますので、セキュリティ対策を更に力を入れてやっていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

井下委員長

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

以上で、政策創造部関係の調査を終わります。

議事の都合により、休憩いたします。（11時24分）